

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 落合 康浩

研究課題		地域資源の適正評価と地域づくりへの活用方法に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、地域の個性ともいべき地域資源を実地に検分することで適正に評価し、それらを活用することで実現しうる地域づくりの方策について検証しながら、その課題について検討することを目的とした。中央集権的な体制の中で経済活動の中心となる地域の開発を優先する開発途上国においては、地方の開発はなおざりにされ地域間格差は拡大しつつある。そのため地方ではその地域独自の地域資源を見出し、活用することで独自の地域づくりを実践しようと試みるが、地域資源の価値を十分に評価できていない場合は問題が生じる。また同じ範疇に類型化される地域資源であっても個性は異なり、地域社会の特徴によって活かされる可能性にも違いがあることから、個別の地域で地域資源を検証する必要がある。
	研究の結果	パキスタン最北部のゴジャール地区は、カラコラム・パミールの山岳地域にあり、少数民族ワヒの居住地域となっている。辺境のため中央政府による開発の手が行き届かない地域ではあったが、パキスタンと中国とを結ぶ自動車道の沿線にあり、NGOによる支援もあって、1990年代には、彼らが伝統的に継承してきた自給的な農牧業は商品作物であるジャガイモの栽培に特化したものへと変化し、来訪者の大半が外国人によって占められる山岳観光地へと成長してきた。しかしながら、2010年に発生した大規模な斜面崩壊が自動車道を寸断し、パキスタン中央部との人および物の流れが阻害されたため、輸送の利便性により成り立っていたジャガイモ栽培は急激に縮小し、外国人観光客が極端に減って、地域住民の得られる金銭的収入は著しく減少することになった。商品経済の進展に伴って彼らの生活は消費支出の大きなものになっていたが、その生活に支障を来たす事態となり、出稼ぎ者の増加や人口流出の進展による地域社会の崩壊すら危惧された。
	研究の考察・反省	中国の支援により自動車道の再建計画は急ピッチで進み、2016年には新たなルートで自動車道が開通した。加えて、近年の国内経済の好調、ゴジャール地区の観光情報の流布によって、この地区への国内観光客が急増している。その結果、宿泊施設などが新規に多数立地し、収入の道を観光に求める人々が増加した。一方で、再び拡大するかに思われたジャガイモ栽培は、今も縮小したままで、食料用作物にかわって牧草の栽培が拡大してきている。これは、移牧をとりやめ専ら村周辺で飼養することになった家畜の飼料を確保するためである。しかしながら、山岳景観と並んで重要な観光資源となりうる放牧地、耕作地の景観や、それらに立脚した伝統的な地域の文化は、持続的な観光を実現していく上で欠かせない地域資源であり、それらを失いかねない地元住民の生業への対応には、大きな改善が求められる。
学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【学会発表】 「パキスタン北部ゴジャール地区における産業の変容」, 2019年11月29日, 日本大学地理学会秋季学術大会 「パキスタン北部ゴジャール地区における生活の変容」, 2020年3月 於駒澤大学, 日本地理学会春季学術大会 (新型コロナウイルス拡大防止のため大会は中止されたが、発表要旨集およびJ-STAGE上での発表要旨の公開をもって当該の発表が成立することになった)</p>	